

助成年度：平成 17 年度

[所属] 宝仙学園短期大学

[役職] 助教授

[氏名] 磯部 錦司 (他計 4 名)

[課題]

自然環境への意識の変容を生み出す環境造形活動と

その教育効果についての研究

[内容]

本研究では、自然観・生命観を培うための自然との直接的なコミュニケーションや体験的な活動のあり方とその内容について究明した。自然に対する共感的・包括的な見方や感じ方、関係性を育てる手段として、「造形活動」や「環境芸術活動」を位置づけ、その有効性を検討し、自然環境に対する見方や感じ方を変容させていく活動内容を示し、体験者に見られる意識の変容を分析することによって、教育上の効果を示した。また、自然との関わりの中で生まれる造形・芸術活動の意味について検討し、どのような体験の質が、子どもどのような見方や感じ方、考え方を育てていくのか、表現の内容とその体験のプロセスにおける記述から、事例をもとに外界や他者に対する感じ方や見方、考え方の変容を示した。その表現は、「第二の自然の生成」「総体的な生命観に根ざしたコンセプチャルな表現」「非現実的現実な又はクリティカルな表現」に見られた。さらに、その内容を整理し、生命のイメージについて分析し特徴をまとめた。その内容は、具象的で具体的な内容から、抽象的で関係を表そうとする総体的な感じ方へと変化していった。また、デンマーク・ブラネ市との共同企画、環境省の構想モデル校や都内を中心とした幼児・学校教育との連携、美術館など社会的な活動との連携等の事例をとおり、教育活動でのあり方を示し、園・学校・施設等の教育現場で具体的な普及がなされるための要素と具体的な実践を試みその事例を示した。